

## ○ベルギーにおける同性愛カップルの祈りについて○

「もしその目的が同性愛カップルを助けるという司牧的な目的であったとしても、これは司教たちの側の誤りである」と典礼秘跡省の長官は、同性愛カップルのための祝福の典礼に関して言う。

(訳者注。『カトリック新聞』2022年10月9日にこれに関する記事がある。そこでは「同性愛カップルのための祈り」とあるが、ゼニットの記事では、祈りの代わりに「祝福」という言葉を使っている。)

Zenir (ローマ、2022年10月4日) ベルギーのフランドル語圏の司教団が同性愛者のカップルのために許可した祝福の典礼をきっかけに、ベルギーの司教団に対して起こった批判の声に賛同したのは、フランシス・アリンゼ枢機卿である。

2008年から2022年まで典礼秘跡省の枢機卿はこう言う。

「同性愛者のカップルに司牧的な配慮を提供する目的であったとしても、これは司教たちの側の誤りである。聖書は同性愛の行為は深刻な逸脱であるとする(創世記 19,1-29; ローマ 1,24-27; コリント前 6,10; テモテ 1 1,10)。

『カトリック教会のカテキズム』のような教会の権威ある教えに訴えつつ、アリンゼ枢機卿はその中の多くの項目を引用する：そこで言われているのは、同性愛の人は敬意をもって扱われるべきであるが、同性愛の行為は本質的に悪であるということである。一言で言うなら、アリンゼ枢機卿はこの種の儀式は誤りであると断言する。

(以下、スペイン語の書簡の全文)

フランシス・アリンゼ枢機卿による宣言

司牧上の回答を模索して。2022年9月24日

2022年9月20日頃にベルギーのフランドル語圏の司教団が、同性愛カップルのための祝福の典礼と呼ばれる文書を発表したという情報が届いた。彼らは、この措置が「誰一人排除せず、歓迎する教会にとって、同性愛者に司牧者として寄り添う」ための一歩であると考えていると言われる。

たとえ同性愛カップルに司牧的な随伴を提供する目的であったとしても、これは司教団の側の誤りである。聖書は同性愛の行為は深刻な逸脱であるとする(創世記 19,1-29; ローマ 1,24-27; コリント前 6,10; テモテ 1 1,10)。教会の伝統も、「つねに同性愛の行為は本質的に秩序を乱すものであると宣言してきました」と言う(2357)。

同性愛の傾向をもつ人々は尊敬をもって受け容れられるべきで、不当な差別の対象になることはないが、彼らも、すべてのキリスト信者と同じく、いやすべての人間と同じく、貞潔に呼ばれている(『カトリック教会のカテキズム』2358、2359参照)。主イエスはご自

分に従う人々に「天の父が完全であるように、あなたがたも完全なものとなりなさい」と言われた（マタイ 5,48）。それゆえ『カトリック教会のカテキズム』は「同性愛的な傾向を持っている人々は貞潔を守るように招かれています。内的自由を培う自制の徳によって、時には友人の献身的な助けのもとに、祈りや秘跡の恵みによって、少しずつではあっても確実にキリスト教的完全さに近づくことができるし、またそうしなければなりません」

この教えは、2021年3月15日に教理省がなぜ教会は同性結婚を祝福する権能を持っていないかを説明する。

これがフランドル語圏の司教団が教えるべきで、すべての司教、司祭が教えるべきことである。祝福を受けるべきは、同性愛者のカップルではなく、適切に結婚した一人の男性と一人の女性のカップルである。人間は創造主である神がお定めになった秩序を変える力を持っていない。教会がキリストに派遣されたのは、すべての人に「キリストが命じたことを守るように教えるため」です（マタイ 28,20）。このことは、人々に罪の痛悔、犠牲、貞潔、完徳に招くことを含む。